

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人
小羊学園

〒433-8105
静岡県浜松市北区三方原町 2709-12
電話：053-584-3337 FAX：053-585-8488
E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp
H.P http://www.kohitsuji.or.jp/
発行人：稲松 義人
印刷所：アド・アール株式会社
定 価：一部 30円



2017年5月20日号-2
第408号

共に暮らす社会

三方原スクエア

施設長 出水 巖生

昨年度より私は静岡県知的障害者福祉協会の副会長や東海地区政策委員の役割が与えられており、広域からの情報や課題を把握したうえで取りまとめや改善に向けた働きも行ってゆくことが求められています。現在は次年度に向けた行政への要望や、30年度に行われる制度の報酬改定に向けての課題抽出と検討などが行われています。障害者福祉に関しては昔の措置制度時代に比べれば多くの制度変更と見直し等も行われてきましたが、近年は特に様々な社会状況も変化してきています。また現在問題点も多感しています。また現在は人材不足も含めた福祉分野の在り方についての課題や、それに伴う支援や運営の苦労も多いのと同時に、行政の仕組みや制度を変えてゆく難しさも実感しています。

中にもスクエアの居住棟と似たような建築様式によって建てられた住宅も増えてきました。入所施設であつても周りの街並みに違和感のないようにというコンセプトの通り、ようやく地域に馴染んできた感があります。また施設前の道路は日常的に行き来する方が多く、中には施設の敷地内私道を横切つて通学する学生もいます。自治会にも加入しており普通に回覧板が回つてきたり、地区のお祭りも自治会の方から参加のお誘いが来ることもあります。旧小羊学園は周りに他施設や学校や病院に囲まれた環境でしたが、日常的に地域の方々との交わりがあるという事はやはりこの環境ならではのあり、それがごく自然な地域性でもあると感じます。施設内での課題は沢山ありますが、この地域の中で利用者も職員も共に生活するという意識は確実に根付いてきていると思っています。

そんな中、先日あるきっかけで他法人の入所施設を見学する機会がありました。幾つかの施設は改築が行われて建物も新しいものですが、その中の一つの施設はまだ改築がなされず、いわゆる大舎性の環境の中で大勢の利用者が生活しており、居室も4人部屋でパイプ型のベッドが並び私物も殆ど置かれていない状態でした。昔の施設はこうだったなあと振り返しながらも、おそらくこの環境の中で利用者も職員も多くの負担が伴うことを想像しました。知的障がいがある、やむを得ない状況があつて施設に入所するとは言え、一人ひとりの人生がこのような環境に置かれている状況がまだまだ多くある事を考えると心が重くなりました。

津久井やまゆり園の事件からもうすぐ一年が経ちます。この一年間の中で障がいを持つ方々の環境と社会は何が変わつたのでしょうか。もちろん施設での防犯設備など具体的に構築されたものもあり、昨年は差別解消法も施行されました。しかし障がいがあつたとしても、社会の中で共に生活する一人の存在として隔てなく暮らせる社会の実現はまだ遠いような気がします。障がいというハンデは、ご本人の問題よりもその人を支える周りの人との関係性や社会の仕組みの問題でもあります。人の能力や人格の差を受け入れられない状態が差別や暴力を生みます。また弱さを抱える人を支える仕組みがない事から弱者という立場が生じます。

障がいという立場に置かれている方々の生活を支える現場では、その地域の中で共に暮らしてゆくための多くの努力があります。しかしその施設や地域だけでなく社会を変えるためには行政や国も一緒になつて啓発し理解が広がるような仕組みを作らなくてはなりません。そのためこれからもこの仕事に携わる一人ひとりが様々な立場から発信してゆかなければとあらためて思います。

特集 幼児期を支える

子どもの健やかな成長を願うご家族にとって、障がいの認知は子どもと向き合う第一歩と言えます。不安や絶望に苛まれる中、ご家族も言めて育ちを支える現場の実践を紹介します。

在宅支援センター ぱびるす

統括主任 本多智代

ぱびるすの概要

「在宅支援センター ぱびるす」は、中区高丘北にあります。幼児期の機能としては児童発達支援事業所として、幼児の通園施設としての役割を担っています。定員は20名で現在は年少々から年長児までの21名を受け入れています。これまで47名の卒園児を送り出し、今年の6月で開所9年目を迎えます。職員は施設長、児童発達支援管理責任者、保育士が日々お子様の支援に関わらせていただいています。

乳幼児期支援の役割

児童発達支援事業所として、発達に心配のあるお子様の受け入れを行っています。ですが、入園の経緯としては、保健師さんとご相談されて入園に至ることが多くなっています。就園後、より個別の支援を必要として、幼稚園や保育園と並行して通うお子様のご相談にも応じて



ぱびるす外観

受け入れを行っています。

お子様の発達の状況については、就園前の1歳6ヶ月健診から確認を行い、子育ての不安や心配は保健師さんが中心となり支えて下さいます。3歳を迎え就園先を選択する時期になりますと、より課題が鮮明となり、親御さんの葛藤が見え隠れします。お子様の成長を楽しむことのできる大切な時期を、親御さんには不安な想いで過ごさせたくはないと強く感じます。そのために、お子様の

成長を共に感じ、喜びを共有できるような支援を目指しています。

日々の支援

新年度には入園式を行い、新入園児と在園児が初めて顔を合わせます。緊張でいっぱいのお子さんと優しく寄り添って下さる親御さん、そして急にお兄さんお姉さんの表情を見せる在園児と一緒に過ごす時間は、これからの園生活を楽しく過ごしてもらいたいと、保育士の意識が高まる瞬間です。日常のプログラムとしては、集団を意識できるような活動と、個別の支援を組み合わせた内容となっています。クラス分けをしており、1クラス7名程度のグループで毎日活動をします。一般園と比べますと少人数のグループとなり、負担をかけずにお子様の成長を促すことが出来る環境となっています。

登園降園は送迎車でご家庭まで伺い、様子確認を親御さんで行っていただきます。連絡ノートや視診からも健康確認を行い、1日元気いっぱい園生活を送ることが出来るように配慮しています。主活動は、制作・音楽遊び・散歩・公園あそびが中心で、夏になるとテラスにプールを出してお水あそびを楽しみます。縦割り保育での活動も組み入れており、誕生会・お楽しみ会・防災訓練を行っていて、園児の成長を感じる事ができ、保育士も喜びを感じると共に、学ぶ

事の多い時間となっています。卒園後は、同窓会を夏祭りという形で企画して、頼もしく成長したお子さんの姿を見せて頂き、親御さんからお話しを伺い、共に成長を喜んでいます。



活動風景

おすびに

一人のお子様の支援に当たる際、他機関との連携も欠かすことが出来ません。並行通園先の幼稚園、保育園や就学先の学校等と情報交換を行い、お子様やご家族が、混乱なく移行できるように配慮しています。また、家庭支援も大切に考えています。子育ての不安の中にある親御さんの気持ちに寄り添いながら、子どもの育ちを共に見守っていくことで、お子様が健やかに成長していける事

を願うとともに、ぱびるすとしての役割を、都度確認しながら家庭も含めた支援に繋げていければとも考えています。ぱびるすの活動を、共に支えて下さる多くの皆様のお気持ち、保育士の力となっております。そして、子どもたちの笑顔を支えて下さっていることに感謝申し上げます。

たんぼぼ

主任(保育士) 高木君江

たんぼぼの概要

たんぼぼは、つばさ静岡(静岡市城北)施設内の児童発達支援事業所です。施設は田畑に囲まれ静かで自然に恵まれた環境にあります。生活介護わたくもと同じ棟に部屋があり、行事、イベント等一緒に参加しています。

職員は保育士2名、看護師3名在籍し、1日5名まで受け入れ、保育士1名と看護師2名で療育を行っております。平成20年に開所し、前年度3月で卒園児20名となりました。

今年度は、年長児3名、年少児1名入園予定で始まり、その空床利用で平成26年から放課後等デイサービスを開き、現在14名が登録し利用しています。どちらも呼吸器使用、酸素投与など手厚い医療的ケアが必要な子供達を、優先的に受け入れしております。



たんぼぼ外観

たんぼぼの取り組み

たんぼぼのプログラムは保育をする上で指針とする、卒園までに身に付けさせたい力の事である保育5領域(健康・人間関係・環境・言葉・表現)を、たんぼぼの子供達に合わせ

①健康 ②生活習慣 ③自我・社会性の3本の柱に組み替えて日課のそれぞれの場面に当てはめカリキュラムを作っており組んでいます。

具体的には (例)

- ① 健康、医療ケアを必要最小限とする
ることを目標にする
- ・自己排痰を促す(遊んで身体を動かすことで痰を出しやすくする)

・唾液の処理、緊張を緩和する、発作の誘発を防ぐ

・子供達の出すサイン(表情、手足の動きなど)を見逃さない

② 生活習慣

〈食事〉気持ちも身体も整え準備する

・あいさつ、手拭き、歯みがき

〈排泄〉不快を伝えてきたら、確認し「上手でしたね、また教えてね」と伝えるなど嬉しい経験を積む

〈着脱〉「右手入れてみましょうか」など順番に声かけし、身体への意識を促しながら、自分の感覚を覚え自発的な動きがあったら一緒に喜び、それを繰り返す。

③ 自我・社会性

・お当番、お手伝いなど役割を繰り返して体験する中で「できたー」など自信につながる気持ちを膨らませていく

・遊びの順番を決め待つ事や、通路で止まる、左右の確認など実践し、その場の状況や理由を伝え 体験を積みながら生活の中でのルールを学んでいく
このようなくつかのカリキュラムを年齢、個性に合わせて作成し、保育方法を評価、改善しながら卒園に向けて進めています。

子供達が日々伝えてくれる気持ち、表情、仕草などを見逃さず受け止め応えていく。そんな関わりのある方を大切に支援していく事が学校に向け、またその後のどんな環境にも自信を持って順

応していくたくましさや養っていく手助けになるのではないかと思います。

保育者の願い

昼夜を問わず医療ケアなど子供達の体調に配慮し、通園を支えて下さる家族の方達。「おはようございます。今日も元氣です。」と子供の様子を伝える保護者の姿。

「今日も楽しんでね」と子供に声を掛け、笑顔で帰っていく後姿を目にすると、頭が下がる思いです。

子供達が楽しみ、笑い、明日への元氣が付き、その元氣や嬉しさを家族に届ける事のお手伝いをする事が、たんぼぼの役割だと思います。
「今日もいっぱい遊ぼうね!」



支援の様子

入所施設の防犯器具を整備

昨年7月の津久井やまゆり園で起きた凄惨な事件後、法人でも改めて施設の防犯対策を検討しました。防犯対応マニュアル等の整備と併せ、防犯カメラ等のハード面の整備も行いました。

具体的には、不審者侵入の未然防止策として、三方原スクエア・支援センターわかぎ・つばさ静岡の3施設の外周に防犯カメラを設置しました。つばさ静岡は、県補助金を申請して設置をしました。ハード・ソフト両面での対応が重要ですが、一番の願いは優生思想ではなく、誰もが当たり前に地域社会で暮らせることだと思いますし、そのための福祉啓発は私たちの役目だと思っています。



施設の外周をくまなくチェック

キリスト教障がい者福祉研修会のお知らせ 「キリスト教社会福祉の現場で『命』の意味をどう捉えるか」 ・・・津久井やまゆり園の事件から1年をおぼえて・・・

講師：木原活信氏（同志社大学社会福祉学部教授）
（著書『「弱さ」の向こうにあるもの』他多数）
日時：2017年7月27日（木）13:30～17:00
7月28日（金）9:00～12:00
場所：日本キリスト教団遠州教会
浜松市中区紺屋町 301-15
主催：日本キリスト教社会事業同盟（当番法人：小羊学園）
参加費 5 千円（宿泊は各自）、問い合わせ 053-584-3337

株式会社日本ロック様より寄付いただく

支援センターわかぎ
浜北区横須賀に本社をおく（日本ロック様より、この度100万円のご寄付をいただきました。利用者の活動備品に用いさせていただきます。この場を借りて厚く御礼申し上げます。



右：日本ロック 米田会長

浜松中区・南区の土地情報下さい

小羊学園では、近い将来に浜松市中・南エリアの拠点整備を検討し始めたところです。しかし、施設整備の財源が厳しい現状です。土地を購入できるゆとりがありません。読者の方やお知り合いで、休閑地等を無償で貸与くださる方がおられましたら、ぜひご紹介下さい。

・候補地

浜松市中区・南区

・土地条件

500坪～1000坪程度
宅地／農地／雑種地問わず
隣接して6m道路
電線・水道管近くにあれば◎

・貸与条件

可能であれば無償
貸与期間、固定資産税免除
建物借入金償還後に土地買い上げ交渉可能

○窓口

小羊学園法人本部 稲松・池谷
053・584・3337



編集後記

最近の東アジア情勢は、戦後日本で最も軍事緊張が高まっている。戦争を知らない世代が国民の8割を超えた現在、実際に戦争が起きたらどうなるのか予測すらかないのでは…。様々な防衛策を講ずるときに、性善説と性悪説によって、対応が異なる場面が多い。国防はまさに「相手が攻めてきた時を想定」した性悪説に基づくものなのだろう。一方、福祉の世界は「受容」に基づく性善から関係が生まれる。東アジア情勢も関係諸国の対話による性善的な信頼関係の構築を願うばかりだ。

梅雨入り間近です。どうぞお身体ご自愛くださいませ。

(F)

小羊学園を支える会

2017年度 寄付金報告

4月 受付分 129,700円 (11件)
累計 129,700円 (11件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局（鈴木）
小羊学園法人本部 ☎ 053-584-3337